

# はじめまして



## 令和6年4月生まれのお子さんを募集します

- 2月3日月～28日金に電話またはEメールで広報広聴課(内線322) ※応募要領は市ホームページをご覧ください。
- 応募者多数の場合は、3月3日月午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



## 令和6年2月生まれのおともだち



**佐野新ちゃん** (白川戸)  
 令和6年2月2日生まれ  
 父・裕光さん 母・美穂さん  
 「あーちゃん♡  
 心も身体も大きくな〜れ!」



**小山紗璃ちゃん** (埼玉)  
 令和6年2月28日生まれ  
 父・賢次さん 母・良美さん  
 「これからも元気に  
 すくすく育つてね♡」



**大島一斗ちゃん** (城南)  
 令和6年2月13日生まれ  
 父・良介さん 母・郁美さん  
 「これからも元気に大きくなつてね! だいすき!」



**中原一耀ちゃん** (南河原)  
 令和6年2月1日生まれ  
 父・正史さん 母・裕美さん  
 「いつも輝く笑顔をみせてね」



**佐藤彩世ちゃん** (谷郷)  
 令和6年2月20日生まれ  
 父・祥吾さん 母・星香さん  
 「笑顔いっぱい  
 大きくなあれ!」



**飯島樂ちゃん** (向町)  
 令和6年2月5日生まれ  
 父・大輔さん 母・瑠菜さん  
 「笑みある人生を」

## 市長コラム — 新しい行田へ —

## 第16回 「南河原スリッパ」 ～伝統を守るためのイノベーション～



行田市長 行田邦子

行田市発のブランドといえば、皆さんは何を思い浮かべますか? いくつかある中で、近年、ブランド化に成功したのは、何といても「南河原スリッパ」だと思います。従来のスリッパのイメージを刷新したことでメディアにも取り上げられ、2022年の商工会全国大会「中小企業庁長官表彰」、2023年「21世紀商工会グランプリ」と、全国トップ賞を受賞しました。

戦後に始まった南河原のスリッパ産業は、最盛期の1980年には国内製造の約3割を占め「日本一」を誇っていました。地域の9割ほどの世帯が何らかの形でスリッパ製造に関わるという、南河原を代表する地場産業に成長したのですが、その後安価な海外製品に押されて製造が激減し、南河原スリッパは存続の危機に瀕していました。このような中、2017年、商工会に立ち上がったのが「地場産業復興 南河原スリッパプロジェクト」でした。弱点を強みに

変えるなど試行錯誤を繰り返し、たどり着いたのがカラフルなアフリカ産バティック生地、しかも左右の柄が違うスリッパ。昔ながらのスリッパの型は変えずに生地を大胆に変える、地場産業を守るための発想の転換、まさに伝統を守るためのイノベーションが、南河原スリッパをブランドとして蘇らせたのです。

古き良きものを守り、歴史や伝統を受け継いでいくためには、時代や社会の変化に合わせて、変えるべきところは変える、不断のイノベーションが必要だと思います。産業も文化も建物も、そして地域社会も、何も変えずにそのままにしておけば、良さを維持できないばかりか、朽ち果ててしまいます。伝統を守ることにはたやすいことではありませんが、それは長い歴史を持つ地域に課せられた使命であり、また、誇りでもあると思います。

今、市長室でこの原稿を書いているのですが、足元はバティック柄のサンダル型、ほどよいヒールで足にフィットするのでお気に入りです。自宅では、新年からは藍染めスリッパが仲間入りしました。今年、南河原村が行田市に編入されてちょうど20年目を迎えました。伝統地場産業を地域の手で蘇らせたブランド「南河原スリッパ」の軌跡をあらためて誇りに思います。

### 今月の表紙

1月12日、産業文化会館で「令和7年二十歳を祝う会」が開催されました。人生の節目の一つでもある二十歳を迎え、真新しいスーツや華やかな振り袖に身を包んだ参加者らは旧友との再会を楽しみながらも、大人としての自覚と責任をもち未来に向かって新たな一歩を踏み出しました。



現在の友だち登録数33,800人!

行田市公式LINEの友だち登録はこちらから!

● 市政・イベント・防災などに関する行政情報を発信します。



ホームページ <https://www.city.gyoda.lg.jp>



環境にやさしい植物油インキ